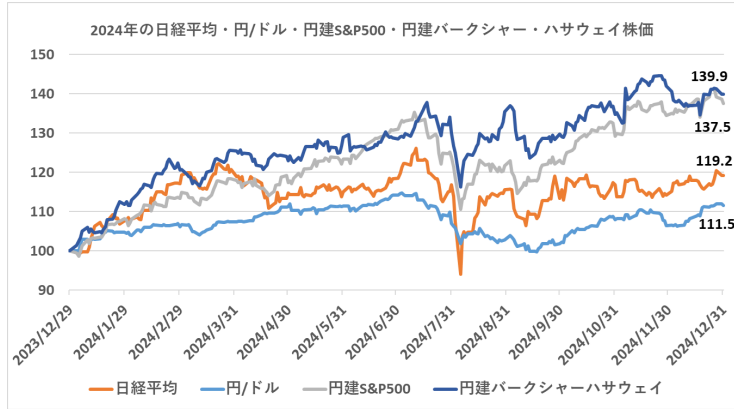


ATTENTION

2024年、日本株も上がったが、米国株はもっと上がった！ 『ネバー・ベツト・アゲンスト・アメリカ』ウォーレン・バフェット



このグラフは、2024年の日経平均、円/ドル、円建S&P500、バークシャー・ハサウェイの円建株価を見たものです。このグラフを見ると、8月初めの急激な下げがいかに大きかったかがわかります。私は「お金があれば買いのチャンス」とお客様に勧めましたが、すぐに戻りました。さて私が、ここで強調したいのは、米国株は2024年も強かったということです。こういうと「また米国株びいきが始まった！」と感じる読者もいると思いますが、その差は歴然です。日経平均は19.2%も上がったので、よい年だったのですが、円建てS&P500は37.5%も上がったのです！円建てだから上回ったのだらうという、ドルベースでもS&P500は23.3%上がっていて、日経平均を大きく上回っています。なお東証株価指数は、17.7%の上昇にとどまり、相変わらず日経平均より上げ幅は低くなりました。年金など機関投資家が、東証株価指数をベンチマークにしていることには疑問を感じます。要は、悪いパフォーマンスに甘んじているということです。日本人が、ようやく米国株の強さをわかってきたと見えて、2024年は、日本人にとって米国株開眼の年だったと言えるでしょう。経済紙も、ようやく「米国一強」とその強さを認めたようです。もう少し早く言ってほしかったと思いますが、いまからでも遅いことはありません。世界最高の投資家バフェットは言っています。「ネバー・ベツト・アゲンスト・アメリカ！」。

COLUMN

日々の行動や仕事に役立つスキル

「こころの知能指数」で有名なダニエル・ゴールマンが、「フロー」という『あらゆる分野で圧倒的成果を成し遂げた人たちは、他のことが目に入らなくなるほど集中して、それを成し遂げる』という理論を退けません。実際の場面で、それが起きることはないし、不可能とします。そして、日頃のゴールとして、『究極の状態』-生産性や集中度を最も上げられる方法を追求すべきで、それは実行可能とします。究極の状態は、日常的に創造力を発揮し、前向きで、生産性が高く、互助の精神が働くといえます。

そして「こころの知能指数」こそが、究極の状態を作り出すカギで、ゴールマンによれば、自己認識、自己統制、対外能力、やる気、そして共感で成り立ち、人々の内面や人間関係をよくする中心的役割を担っているといえます。要は、気持ちを安定させ、困難に打ち勝つ方法なのです。一方で、究極状態をつくり、それを維持するには注意、努力とスキルが必要で、自己認識ができれば、集中を維持するため、内的状態に気をつける、やることの優先順位を付けられる。共感とは、対人関係を豊かにし、周りにより影響を与えるということです。こころの知能指数が高い人は、他の人々により影響をもち、彼らも最良の状態に行けて、組織の生産性、効率性、相互の信頼を高められるとします。「フロー」の考え方は魅力的に見えるが、実行は難しく、日々応用でき、世の中がよくなるためには、日々なすべきことを最良の状態に持って行ける「こころの知能指数」が大事としています。やはり何をやるにも、自分のこころのコントロールということです。

How to Sustain Excellence Every day by Daniel Goleman

MARKET

指標	(12月末)	(11月末比)
日経平均	39,894.54円	+1,686.54円 (+4.41%)
NYダウ	42,544.22ドル	-2,366.43ドル (-5.27%)
米ドル	157.25円	+7.45円 (+4.97%)

私の書棚より

繰り返しの修練。続けたところにいのちがある。なんでも長い間続けると、そこにいのちが現れてくる。

-神道<いのち>を伝える 葉室頼昭著

15つあった官製ファンドの9つが大赤字

やはりこうなると、予想があたって喜んでいてる場合ではありません！「国主導の相次ぐ官民ファンド設立の行く末は目に見えている」と2013年9月号ニュースレターに書いて11年。その体たらくは、その予想を超えるものになっています！11年前のニュースレターで書いた予想は、むしろ控えめな見通しでした！2013年に4兆円もつぎ込んで15もつあった官製ファンド(官民ファンドと名乗るが、実態は官製)のうち、なんと2024年3月時点で9つのファンドが累損状態なのです。「あなた方は上向いて歩けないでしょ！」といいたくなります。

改善計画はこれから25年後に赤字解消を目指す

国土交通省系の官製ファンド「海外交通・都市開発支援機構」(いかにも役人が付けそうな仰々しい名前)は、2024年4月期に800億円もの巨額損失を計上。12月13日の日経には、小さな記事で、国土交通省が改善計画を示し「2049年度の累損解消を目指す」。なんと、いまから25年後、設立から37年後に累損解消を目指すというのです！そして、恥も外聞もなく改善計画を出すのが、本家本元の国土交通省。こんなことは民間ではありえません。とっくの昔につぶしているでしょう。「役人の神経とはこういうものか」と、改めて感じ入ります。逆に言うと、今後25年間、組織は延命、自分たちも天下り先を確保できて、安泰ということになります。そして、25年後に累損解消する根拠はどこにもありません。累損解消できなくて、残念でしたと終わるのは目に見えています。

役人は一度作った天下り先は手放さない

役人の悪いところは、一度作った組織は決して手放さないということです。要は、いかに天下りできる組織をつくるか。これが大きな実績になるのです。

こういう役人支配の仕組みが、数十年にわたり日本を蝕んできたのです。またそれが、見えにくいので、質(たち)が悪いのです。人々の中には、役人は優秀で、偉い人達という、善良な市民が多いのは確かです。要は、役人への監視機能が働かないのです。政治家も、役人に頼りがちで、政治家から、役人批判が出ることはめったにありません。役人に横向かれたら、身動きできなくなる、政治家の能力の低さ。いわば役人は、日本国全体を、現状維持、不活性化、弱体化させている張本人なのです。

役人は黒子のように立ち回り、責任は取らない

役人は黒子のように、いろいろなところでうごめいています。そして、質(たち)が悪いのは、責任を取らないこと！その最たるところが、経済産業省。ここの動きは、われわれ国民にはなかなか見えませんが、日本の産業を後ろから動かしているといつてよいでしょう。しかし、やることはすべて間違い…。そして、結果責任は取らない。失敗すると、横を向いて我知らず。日本産業の衰退は、経済産業省の責任といつてよいでしょう。本人たちは、自分たちが国を担っていると完璧な勘違い。懲りない面々なのです。その悪弊が国民にわからないところが、こわいのです。「だめだ、こりゃ」というのが、正直な感想です。

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いのない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男
公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス

代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386

携帯：070-5567-3311

電子メール：info@bfsc.jp